



学校だより

明るく 楽しく 元気よく

大田区人権教育研究協力校

「みんながいる わたしがいる
さしのべる 生きている」

令和8年6月9日

大田区立糎谷中学校

校長 田崎 陽一 No.3

明るく 楽しく 元気よく 過ごしていますか？

朝礼講話より

6月を迎えました。新しい学年が始まって2か月が過ぎ、学校生活にも少しずつ慣れてきた頃だと思えます。

私は始業式以来、「明るく 楽しく 元気よく」を合言葉として皆さんに話をしてきました。しかし、先日の朝礼では少し残念な話をしなければなりませんでした。

最近、先生や目上の人に対して乱暴な言葉を使ったり、友達同士のやり取りの中で相手を傷つける言葉が聞かれたりすることがありました。「うるせえ」「死ね」「消えろ」などの言葉です。とても中学生の言葉とは思えません。非常に幼く感じます。

言葉は、人を励まし、勇気づける力をもっています。その一方で、人の心を深く傷つける力もあります。自分は軽い気持ちで言ったつもりでも、言われた相手は長く心に傷を負うことがあります。

皆さんも将来、社会に出て働くようになります。相手を傷つけたり、相手を尊重しない言動を続けたりすれば、信頼を失い、時には仕事を続けることさえ難しくなります。社会は、人と人との信頼関係で成り立っているからです。

朝礼で私は皆さんに問いかけました。

「その言葉で、誰か幸せになりますか？」

もし、その言葉によって誰も幸せにならないのであれば、その言葉を口にする必要はありません。

どうせ言葉を発するのであれば、「ありがとう」「大丈夫？」「一緒にやろう」「頑張ったね」など、お互いが少しでも幸せになれる言葉を使ってほしいと思います。

よく「人は鏡」と言われます。自分が笑顔で接すれば、相手も笑顔になります。自分が優しい言葉を使えば、相手も優しい言葉を返してくれます。言葉もまた鏡なのです。

一人一人が相手を大切にすることを学び、誰もが安心して過ごせる学校をつくっていきましょう。

6月も、「明るく 楽しく 元気よく」、そして思いやりのある言葉があふれる糎谷中学校をみんなで目指していきたいと思っています。

校長 田崎 陽一



「助けられる側」から「助ける側」へ ～地域防災訓練のご報告～

6日(土)、1年生全員と2・3年ボランティアが参加して**地域防災拠点訓練**が実施されました。自治会、消防署、消防団等地域ボランティアの皆様、そして保護者の皆様、多大なるご協力をいただき誠にありがとうございました。中学校に入学して初めての本格的な防災訓練。生徒たちは「中学生になり、地域の一員として何ができるか」を考えながら、避難所運営に関わる実践的な訓練に一生懸命取り組みました。

- ① **段ボールベッド・プライベートテントの組み立て**: 班の仲間と声を掛け合いながら設営しました。床からの冷気を防ぐ工夫など、避難所生活の課題を肌で学びました。また、災害時のプライバシー確保に欠かせないテントを建てました。大型の資材を全員で協力して支え、手際よく形にしていきました。
- ② **仮設トイレの組み立て**: 災害時に最優先で必要となる仮設トイレの構造を学び、設置を行いました。衛生環境を維持することの重要性を再認識する機会となりました。
- ③ **車いす、担架、搬送体験**: 段差や傾斜がある場所での介助方法を学びました。乗る側の不安に寄り添い、災害時の要配慮者へのサポートを意識するきっかけとなりました。
- ④ **給水所からの水くみ**: 重い給水袋を運ぶ体験を通し、生活用水の貴重さを身に染みて学びました。
- ⑤ **アルファ化米の炊き出し体験**: 限られた水と資材で食事を用意する難しさを学びました。試食時には、温かい食事の大切さとありがたみを全員で実感しました。
- ⑥ **カセットボンベ発電機体験**: 停電時に不可欠な電源の確保として、身近なボンベを使った発電を体験しました。
- ⑦ **ミニポンプの操作、初期消火訓練**: 地域独自の初期消火の要となるミニポンプの仕組みと使い方を学びました。火災発生時を想定し、消火器を正しく扱って的確に放水する練習をしました。

○ 生徒の振り返りシートより(1年生の感想)

「小学校の時と違い、今回は自分たちの手で避難所を作ったり、発電機やポンプに触ったりする体験でした。中学生が率先して動くことが、地域を助けることにつながると分かりました。」「カセットボンベで電気が作れることに驚きました。」「初期消火は、いざという時に自分が動けるように手順を覚えておきたいです。」「車いすや給水袋の体験を通して、普段の生活がどれだけ恵まれているか気づきました。もし災害が起きたら、近所のお年寄りにすぐに声をかけたいです。」

○ 学校より

今回の訓練を通じて、生徒たちは「自分の身を守る(自助)」だけでなく、「地域や周りの人を助ける(共助)」の意識を大きく膨らませていました。初めて触る機械や作業にも前向きに、声を掛け合って取り組む姿に、1年生としての頼もしい成長を感じました。ご家庭でもぜひ、訓練の様子をお子様から聞き、非常時の家族の役割分担について話題にしてみてください。